

令和5年度 第2回

# 「家族のさずな」

## エッセイ集



今治地域モラロジー連絡会議

今治モラロジー事務所 今治南モラロジー事務所

後援: 今治市/今治市教育委員会/今治市PTA連合会/公益財団法人 モラロジー道徳教育財団/愛媛県モラロジー協議会

# 令和5年度 第2回 「家族のきずな」エッセイ集

## 目次



- 2 発刊に寄せて 今治市教育委員会 教育長 小澤 和樹
- 3 ご応募いただいた小・中学校
- 4 入賞・入選作品一覧
- 6 特別賞作品
- 11 優秀賞作品
- 19 優良賞作品

# 「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

## 「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

## 「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切に尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

## 「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

## モラロジーとは

モラロジー (moralogy) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

## 公益財団法人モラロジー道徳教育財団

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

『家族の愛が未来へつながる』

今年も、家族の温かい触れ合いや感謝の気持ちで詰まった「家族のきずな」エッセイ集が出来上がりました。発刊に「尽力いただきました今治地域モラロジー連絡協議会の皆さまに感謝申し上げます。小中学生の皆さんから寄せられた家族愛にあふれたエッセイには、家族に対する優しさや感謝の気持ちが率直に表現されていて、多くの読者に感動とぬくもりを与えてくれます。

幸せをありがとう、ぬくもり届きました

何より元気でよかったです♪

宝物をありがとう、思い届きました

生まれてきてよかったです♪

この詩は、さだまさしさんの「Birthday」という歌詞の一部です。この歌は、旅行番組『鶴瓶の家族に乾杯』のテーマ曲になっています。番組では鶴瓶さんのユーモアとぬくもりのある会話によって、ご当地の人々の人間味あふれる家族模様が紹介されます。私はこの番組を家族で楽しみに見えています。その中で「Birthday」の曲が流れると一層温かい雰囲気になります。そして、この曲「Birthday」は七番まで続きます。大切な人から届いた「ぬくもり」と「言葉」を受け取り、改めて生まれてきたことの喜びや、人の優しさに心が満たされる、といった内容で、最後は大切な人に心を添えて季節の花を贈り返す、という描写で締めくくられています。

「幸せをありがとうぬくもり届きました♪」  
愛情を受けた子どもたちは、人を愛することを学びます。そして、人のぬくもりや心の触れ合いを大切にしながら人生を心豊かに成長していくことでしょう。これからも、このエッセイ集が、子どもたちの家族を思いやる優しさや感謝を伝える場として、益々発展されていくことを心から祈念いたします。発刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

ご応募いただいた小・中学校

小学校

今治市立	乃万小学校	鴨部小学校
	波方小学校	菊間小学校
	亀岡小学校	鳥生小学校
	国分小学校	清水小学校
	波止浜小学校	大西小学校
	桜井小学校	朝倉小学校
	近見小学校	

中学校

今治市立	立花中学校	南中学校
	大西中学校	朝倉中学校
	菊間中学校	桜井中学校
	日吉中学校	近見中学校
	北郷中学校	
今治明徳中学校		

エッセイ応募総数 170点 応募学校総数 23校

※順不同

# 入賞・入選作品一覧

## 今治市長賞

### きせき

今治市立近見小学校 4年 <sup>あか</sup>赤 <sup>みね</sup>嶺 <sup>なな</sup>七 <sup>み</sup>海

## 今治市教育委員会 教育長賞

### 私のライバルはお父さん

今治市立波方小学校 5年 <sup>いし</sup>石 <sup>ばし</sup>橋 <sup>な</sup>南 <sup>な</sup>奈

## 今治市PTA連合会 会長賞

### 祖母へのカレンダー

今治市立大西中学校 3年 <sup>あ</sup>阿 <sup>べ</sup>部 <sup>まさ</sup>正 <sup>や</sup>哉

## 公益財団法人モラロジー道德教育財団 理事長賞

### ボロボロのおまもり

今治市立鳥生小学校 4年 <sup>こん</sup>近 <sup>どう</sup>藤 <sup>ゆ</sup>優 <sup>り</sup>里

## 愛媛県モラロジー協議会 会長賞

### 私の兄

今治市立近見小学校 6年 <sup>よし</sup>吉 <sup>だ</sup>田 <sup>ゆ</sup>有 <sup>な</sup>那

## ◇優秀賞

大すきなかぞく	亀岡小学校 2年	そ ね たいが
でんせつのおべん当	亀岡小学校 3年	東本 こうのすけ
かぞく	亀岡小学校 3年	長 野 い と
大すきなおしゃべりタイム	亀岡小学校 4年	菅 里 緒
遠くにいてもつながっている	亀岡小学校 6年	小 野 真 由
ぼくたちのたからもの	波止浜小学校 2年	河 野 智 也
「ぼくの妹」	大西小学校 5年	新居田 大 誠
家族の大切さ	桜井小学校 5年	田 村 美 響
「大好き」	桜井小学校 6年	富 原 龍 吾
絵本と家族	立花中学校 3年	山 内 愛 子

お手伝いで分かったこと	南中学校 1年	安 田 穂 奏
調味料は……	菊間中学校 2年	越 智 彪
家族との週末	日吉中学校 1年	半 沢 優 衣
カメラマン・父	今治明徳中学校 2年	越 智 あんじ
本当のきずな	今治明徳中学校 3年	下久保 来 美
ごちそうと家族	今治明徳中学校 3年	原 菜由香

## ◇優良賞

きもちをつたえるたんじょうびかい	乃万小学校 1年	やたに いちか
大すきなひいおばあちゃん	乃万小学校 2年	い て ゆづき
みんなうれしい三姉妹	乃万小学校 3年	宮 谷 葉 月
妹が生まれる時	乃万小学校 5年	池 内 翔 貴
四人家族	乃万小学校 6年	眞 鍋 昊
おじいちゃんはヒーロー	鴨部小学校 2年	長谷部 圭
ぼくのお父さんは人気者	鴨部小学校 3年	越 智 日 向
うちの母ちゃん	鴨部小学校 6年	石 川 天 都
いつまでもなかよく	波方小学校 4年	櫻 井 恵 中
久しぶりのおばあちゃん	菊間小学校 5年	松 田 瀬 仁
これぞわが家のルール	菊間小学校 6年	濱 川 羽 琉
私といとこをつなぐ人	亀岡小学校 6年	井 手 ゆ い
わたしの大切なそんざい	鳥生小学校 4年	吉 田 清 玲
家族の役わり	鳥生小学校 5年	松 井 杏 珂
おばあちゃん	国分小学校 2年	羽 藤 な な
パパのきのこごはん	清水小学校 1年	落 合 幸 菜
家族との思い出	清水小学校 4年	武 田 朔 弥
大好きなおばあちゃん	波止浜小学校 4年	越 智 輝 斗
ひいおばあちゃんとの思い出	大西小学校 5年	小 林 未 来
私のお父さん	大西小学校 6年	小 林 楓 歩
お母さんの愛情	大西小学校 6年	加 藤 朱 莉
ひいじいちゃんとの約束	桜井小学校 5年	井 手 輝
ぼくのじいちゃん	桜井小学校 6年	石 川 弦
いつもありがとう	桜井小学校 6年	眞 辺 理 壱
私の大切な家族	朝倉小学校 5年	脇 村 あおい
みんなでしあわせ	近見小学校 2年	木 村 倅 花
弟が生まれた	近見小学校 2年	中 野 綸
ぼくのお兄ちゃん	近見小学校 3年	榎 矢 聖 透
男のやくそく	近見小学校 3年	大 野 颯 晴
仲よしの家族	近見小学校 6年	壺 内 咲 奈
祖父とのテレビ電話	立花中学校 1年	寺 嶋 有
守ってくれた命	立花中学校 2年	野 田 怜 那
僕と祖父と野球	立花中学校 3年	田 頭 颯 真
母との時間	大西中学校 2年	竹 内 加奈子

今治市教育委員会 教育長賞

私は、お父さんの言う事を素直に聞けない。お母さんの言う事は素直に聞ける。妹のわがままもかわいい。けど、なぜかお父さんの言う事は素直に聞けない。なんでだろう。私は考えてみた。お父さんは、ライバルだから。私の分からない算数も、かんたんに解くし、いつしよにかけっこをしても、お父さんを追いぬけない。そして、私が毎日練習しているバスケットでも、お父さんには勝つことが出来ない。これが一番くやしい。だから、お父さんの言う事を素直に聞けない。でも、素直に聞けないと私は、いつまでたっても、上手になれないし、お父さんに勝てない。私が、お父さんに勝つには、私がきちんと素直に聞くか、おじいちゃんになるのを待つか、ぶよぶよのおなかになるのを待つか。でも、おじいちゃんまで待つと、私もおばさんになるし、ぶよぶよなお父さんはいやだ。やっぱり、今のお父さんに勝ちたい。もう少し素直に聞こうかな。出来るかな…きつと出来る。



私のライバルはお父さん

波方小学校 五年 石橋 南奈

今治市長賞

あの日、あの時、母が病院へ行かなかつたら…。あと一日でもおそかつたら…。弟は生まれてこれなかった。そんなぎせきのストーリーが、私の家族にはある。  
おなかの中で、弟があまり動いていないかも、と感じた母。生きたいよ、会いたいよ、と母に知らせた弟。きつと、二人の強いきずながあつたのだと思う。三ヶ月も早く生まれ、一キロもなく、だれよりも小さかつた弟。機械に囲まれたNICUに入院。仕事を終えた父は母と一しよに、毎日かた道一時間かけ松山へ。弟に母にゆうをとどけ、会いに行った。  
みんながんばつた。弟がたい院し、家族五人初めて家にそろつたのは、私の四才のたん生日だった。弟がくれたプレゼントだった。  
体は小さめだけど、今では元気いっばいの小学一年生。けんかしたりいやなこともあるけど、ふと気づかされる。大切な命。今この家族でいられること。感しゃしなくちゃ。当たり前は、当たり前ではないのだから…。



近見小学校 四年 赤嶺 七海

公益財団法人モラロジー道德教育財団 理事長賞

ポロポロのおまもり

わたしは二年生の春、今の学校にてんこうした。「友達はできるかな」「先生はやさしいかな。」いろいろな不安で頭がいっぱいで、体はきんちようでかちこちだった。そんな時、わたしのためにお母さんがおり紙でおまもりを作ってくれた。おまもりの中には、お母さんが書いてくれた手紙が入っていた。「ゆりちゃんならだいじょうぶ。」というぶんしょうで、安心して少しゆう気がでた。わたしはそのおまもりを、毎日服のポケットに入れて、登校した。体育の時間も、体そ服のポケットにうつして、いつもいつも持っていた。気づくとおまもりはポロポロになっていた。お母さんが「新しいおまもりを作ろうか。」と言ったけれど、わたしは「このおまもりがいいからだいじょうぶ。」と答えた。時間がたって、わたしは四年生になった。今はおまもりがなくても平気だ。このポロポロになったおまもりを見ると、二年生のころに不安だったなと、なつかしく思う。



鳥生小学校 四年 近藤 優里

今治市PTA連合会 会長賞

祖母へのカレンダー

僕が小学五年生のとき、一緒に住んでいた祖母が松山に入院した。僕はおばあちゃん子で、小さいころから祖母となわとびをしたり、オセロで対戦したりして、よく遊んでもらっていた。そんな大好きな祖母が入院してしまい、僕は心にポカンと穴が空いたようだった。長い入院生活で祖母も寂しいだろうと思い、僕は祖母に何かしてあげたかった。そこで祖母とよく行った百名城の絵を一枚一枚描き、色を塗り、三十一枚作った。そして、その絵に日付を書き、日めくりカレンダーを作った。

ある日、入院している祖母に僕の手作りカレンダーを渡すと、とても喜んでくれた。祖母は毎朝病院でその手作りカレンダーをめくるのが楽しみだったという。また、病院の先生や看護師さんが僕の描いたお城をすごくほめてくれたらしく、祖母は嬉しかったそうだ。

僕は百名城巡りをずっと続けている。そして、祖母の仏壇には、僕が小学生のときに祖母のために作ったカレンダーが飾ってある。



大西中学校 三年 阿部 正哉

愛媛県モラロジー協議会 会長賞

私の兄

近見小学校 六年

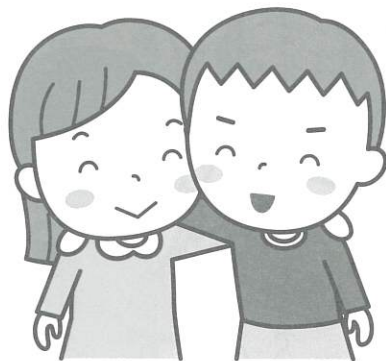
よしだ 吉田 有那

私には、二才年上の兄がいる。兄は、いつも私にちよつかいを出してくれる。だから、たよりにくお兄ちゃんというより、弟みたいに思うこともある。兄はいつもけんかする。ほんのささいな事で、すぐにけんかになってしまう。母の怒声がひびく、「いいかげんにしなさい。」

それでも、けんかが続く事が多いが、いつの間にか仲直りして、仲良く話している。

兄は、いやな事があると私に意地悪をしてくる。だけど、私が水泳大会前日にきん張して弱気になったら、はげましてくれて勇気をくれる兄がいた。よく考えてみれば、私が困った時は助けてくれて、いざという時には守ってくれる、たのもしい兄だ。生まれてから今まで、何回兄に助けてもらったかわからない。本当はしっかりしていて、妹思い。

兄は、私の人生を豊かにしてくれている。兄と一緒に助けあって、成長していきたい。兄ちゃん、ありがとう。これからも助けてね。



大すきなかぞく

亀岡小学校 二年 そね たいが

ぼくの家では、家ぞくみんなでおふろに入ります。お父さん、お母さん、ねえね、にいに、ぼく。おふろは、大じゅうたいです。わいわいして、とてもたのしいおふろです。たまにお父さんがしごとでかえるのがおそいときとか、一人でもすくなくいと、さみしく思います。

ぼくがおばあちゃんの家におとまりしたときもみんなは、さみしいと思ってくれてるのかな、とふあんになります。おとまりからかえるとお母さん、お父さんが

「さみしかったよ。」

って言ってくれてともうれしかったです。そして、その日も、かぞくみんなでおふろに入ってわいわい楽しくお話をします。

「しりとりしよう。」

「早口言は言える。」

おなががいたくなるぐらい、わらいます。

これからも、みんなでおふろに入って、楽しい時間をつづけてたいです。みんな大すき。

でんせつのおべん当

亀岡小学校 三年 東本 ひがしゆり こうのすけ

姉。ぼくには、二人の姉がいる。一番目の姉は、やさしくて、おこつてもこわくない。二番目の姉は、けんかばかりしてしまう。そんな二番目の姉が、一番目の姉とお母さんのいない日に、作ってくれたものがある。それが、「でんせつのおべん当」だ。

メニューは、「ひでんのタレとりどん」、「ひじきに」、「たまごやき」、「花の形のハム」、「ブロッコリー」と「プチトマト」だ。ひでんのタレとりどんは、ぼくが、一年生の時からとりこになっているおじいちゃんとかせいのタレだ。これを食べたなら、やさしい気持ちになった。ひじきには、ぼくの大こう物だ。いつ食べてもおいしい。たまごやきは、姉がやいてくれた。こうばしく、しょっぱくてあま味があった。花の形のハムは、見てかわいくおもしろい、食べたらくてもおいしかった。朝四時におきて、姉が作ってくれたおべん当は、かぞくの心がこもったでんせつのおべん当だ。これを食べたぼくは、幸せ者だ。

## かぞく

亀岡小学校 三年 長野<sup>ながの</sup> いと

今年もわたしの家におぼんがきた。

わたしは、おぼんがだいすき。お父さんが言うには、おぼんはじいじとばあばが家に帰ってくるそうだ。

ばあばは、いつもいっしょにいてくれた。ようち園のバスをまってくれたり、ママごとをいっしょにしてくれたりした。ごはんを作るのがとっても上手で、今もカリカリマメはすき。いろんなところにもつれていってくれた。

じいじは、あんまりおぼえていない。でも、小さいときのしゃんには、いつもじいじがとなりにいる。カゼをひいたわたしをおなかの上でねさせてくれているしゃんがだいすき。二人ともわたしのことがだいすきで大切にしてくれていたと思うと、うれしくなる。

今日は、おくり火でじいじとばあばは、行ってしまっらしい。来年も、また帰ってきて、わたしのせいちようを見てよろこんでほしい。わたしもかぞくを大切にするよ。

## 大すきなおしゃべりタイム

亀岡小学校 四年 菅<sup>かん</sup> 里緒<sup>りお</sup>

わたしは、ねる前にいつもお母さんとふとんの中でおしゃべりをします。じゅ業中に先生が教えてくれたこと、友達のこと、部活のことなど、一日あったことをたくさん話したい気持ちになります。

わたしは四年生になり、金管バンド部でトランペットをすることになりました。でも、なかなか音が出ず、やめたいと思うこともありました。そんな時、お母さんが、

「一緒に練習してみようか。みんなできないこともあるし、すぐにはうまくならないものよ。大じょうぶ。大じょうぶ。」

と言ってくれました。そして、お母さんのピアノに合わせて音出しをがんばっています。

他にも、いやなことがあると聞いてもらいます。そしたら、『ギュー』と、だきしめて元気パワーをくれます。少し気持ちがスッキリします。たくさんたくさん話しても、まだまだ話しきれない気がします。わたしはねる前のおしゃべりタイムが大すきです。

## 遠くへ行ってほしいな

亀岡小学校 六年 小野<sup>おの</sup> 真由<sup>まゆ</sup>

ひいおじいちゃんが亡くなって二年が経ち、この間三回きを行いました。

コロナも落ち着き他県の親せきも来ることになり、初めて会う親せきにはずかしそうにあいさつしました。そして皆でお墓に行くと、

「やつと会いに来たよ。」

と、少しさびしそうに手を合わせていました。お母さんも久しぶりにいとこに会えてうれしそうで、九十七歳のひいおばあちゃんも、

「元気なうちに孫やひ孫の顔が見れてよかった。ひいおじいちゃんも天国で喜んでいるよ。」

と、ほほ笑んでいました。

最後にみんなで写真を撮りました。初めて会った人も多いのだから知っていたような気持ちになり、きつとひいおじいちゃんがみんなと会わせてくれたんだなと思いました。帰りに親せきの人たちと「色々大変だけどがんばって。また会おう。」

とおたがい手を振りました。遠くにいるもつながらいると思いい絆の大切さを感じました。

## ぼくたちのたからもの

波止浜小学校 二年 河野<sup>こうの</sup> 智也<sup>ともや</sup>

きよ年の夏休み、ぼくは、お母さんから、「お兄ちゃんになるよ。お母さんのおなかに、赤ちゃんがきてくれたよ。」と言われました。ぼくは、うれしくて、早く会いたいなと思いました。

それからすこしすると、お母さんは、気もちわるいと、ねていることがおおくまりました。ぼくは、その時、自分にできるお手つたいを、たくさんしました。お母さんはそんなぼくに、「とてもたすかるよ。ありがとう。」といってくれ、心がぼかぼかになりました。

お母さんのおなかは、どんどん大きくなっていき、ぼくもまい日おなかに話しかけました。ある時、おなかの中からへんじがきました。「ぼくは元気だよ。早くお兄ちゃんに会いたいな。」と言っているように思いました。

赤ちゃんが生まれ、たいいんの日、お父さんといっしょにおむかえに行きました。とても小さくかわいかったです。はじめまして、ぼくがお兄ちゃんだよ。よろしくね。



## 「ぼくの妹」

大西小学校 五年 新居田 大誠

ぼくの妹は、一才三カ月。ぼくが勉強しているといつもじゃまをしてくる。何でもなめるしえんぴつでぐちゃぐちゃにかこうとする。「それはダメ。」と言うと、すぐ大泣きする。あばれんぼうの妹かいじゅうだ。でもなにをしてもともかわいいた切な宝物の妹だ。笑顔や寝顔が天使である。ぼくが名前をよぶと「いに」とよんでくれ、ぼくの方にきてくれる。お母さんと妹が野球の応援になると、手をパチパチしてがんばれとおうえんしてくれる。ぼくもさらにがんばろうと思う。ぼくがぐちゃぐちゃして泣いていると「大丈夫。」とヨシヨシしてくれる。学校から帰ると、おかえりとひよっこ顔をだしてくれる。ぼくはうれしくて走って行ってだっこする。妹がうまれて、ぼくたち家族みんなの笑顔がふえた。家族みんなの大切な大切な世界にひとつの宝物だ。これからもみんなで大きくなるのを見守るからね。元気いっぱい笑顔いっぱい大きくなろうね。

## 「大好き」

桜井小学校 六年 富原 龍吾

ぼくは心に残っている言葉があります。それは、かぞくから言ってもらった「大好き」という言葉です。その言葉を言ってもらったのは、ぼくが幼いころです。ねる前や起きた後にいつも、

「大好き」

と言ってくれていました。だから、ぼくはそのときに「大好き」と言われると、うれしいだけではなく勇気をつけてくれるように感じました。だからぼくは、みんなは魔法を使っているのかなと思っていました。でも、今考えてみるとみんながぼくのことをとても愛してくれているんだなと思いました。だからぼくもこれからみんなに

「大好き」

と言つて家族を愛し続けていきたいです。そしてぼくは来年の元日に「家族が幸せになりますように。」と願います。

## 家族の大切さ

桜井小学校 五年 田村 美響

私の家族は、お父さん、お母さん、妹の四大家族です。私は家族がとても大好きです。私の家族はみんな明るく、いつも賑やかです。わが家ではルールがあります。夜ご飯の時は、その日にあった楽しい事や嫌な気持ちになった事を話します。嫌な気持ちになった事を話すとみんながはげましてくれたりするから嫌なことがふつとんでいきます。そして気持ちが出るようになります。みんなの言葉にはまほうのパワーがある気がします。楽しかった事を話すと賑やかな家族がさらに賑やかになります。笑い声が沢山の夜ご飯になります。美味しいご飯がさらに美味しく感じます。

家族みんなが元気に「いただきます。」「ごちそうさま。」と言いご飯と一緒に食べれる事はとても幸せだと思います。あたり前ではない事を知りこの時間を大切にしたいです。

私の家族は本当に賑やかです。そんな家族が大好き。この家に生まれて本当によかった。私にとって家族はとても大事な宝物です。

## 絵本と家族

立花中学校 三年 山内 愛子

私の家には、絵本コーナーがある。赤ちゃんから小学校低学年位までの色々な種類の絵本が約二五〇冊。私が小さい頃は、毎日何冊も父や母のところに持って行って、ちよこんとひさに座って読んでもらっていたそう。キリがないので、寝る前に布団の中で読んでもらう絵本は、兄と私の分を合わせて三冊まで、というルールもできていた。セリフを覚えて一緒に読んだり、飛び出す絵本にビックリしたり、黙々とページをめくったり、色々な楽しみ方をしていたそう。両親は、絵本を選ぶ真剣な眼差しや、一生懸命何冊も絵本を運んでくる姿が大好きだったそう。

私は今でも時々、絵本コーナーに座って絵本を開いてみる。ひらがなばかりの絵本を読んでいると、とても懐かし、穏やかな気持ちになる。また、絵本を通して親子の絆が深まり、愛情に包まれて育てもらったのだと感じる。家族もこの絵本コーナーもいつまでもいつまでも大切にしていきたい。

## お手伝いで分かったこと

南中学校 一年 安田 穂奏 やすだ ほのか

夏休み、私は家事のお手伝いをしました。これまで部活が忙しくてできなかったので、その分精一杯頑張りました。

食器洗いや洗濯物干し、洗濯物畳みなど、自分ができることを全部やりました。しかし、それを通して、お手伝いは一人だけするものではなく、家族と協力しながらするものだとということがわかりました。

畳んだ洗濯物を元の場所に戻すとき、私はどこに戻すのがわかりませんでした。その時、弟と妹が「これはここだよ」と教えてくれました。夏休み中は洗濯物を畳むことが無かったので、何回も畳んだことがある二人に助けられました。

始めたときは「面倒くさいな」と思っていたけど、最近、お手伝いが楽しくなってきました。それは、助けられたことよって家族のありがたさが分かったからです。普段は全然していなかったお手伝いもこれからは自分から進んでしようと思った夏休みでした。

## 調味料は……

菊間中学校 二年 越智 あんじ おち たける

僕一人を残してみんな買い物に行った僕の家には十二時のチャイムが鳴り響く。お腹の空いた僕はお湯を沸かし、カップめんを三分クッキング。カップめんは大好きなので、もちろんおいしかった。とてもおいしかった。でも、いつもの母の料理よりはおいしくなかった。三日に二回は僕の嫌いな食べ物や料理を作るような母の料理なのに。カップラーメンの方が圧倒的においしいはずなのに。

母とよくけんかをしている僕は母が嫌いだった。母も僕のことを多分嫌いだ。けんかしたから、家族みんなで行った買い物にも行かなかったのだ。でも、気になったので、聞いてみた。「どしてかあちゃんのごはんはうまいん？」母、料理が上手やけんね。まあ、あと、愛を込めとるけんね。」それがおいしい理由だそうだ。けんかしても、母は僕のことを愛してくれているのだ。その日の白ごはんはどんな調味料よりもおいしい「愛」がふりかけられていた。

## 家族との週末

日吉中学校 一年 半沢 優衣 はんざわ ゆい

私の家では、毎週土曜日に家族で料理を作っている。一人一品、簡単なものを作ってみんなで食べるのだ。家族全員で食卓を囲み、料理のこと、最近の出来事、雑学などの話をするこの時間が私は大好きだ。始めてから一年半程がたち、一冊だったレシピの本が今では五冊に増えている。母に手伝ってもらっていた妹も、いつの間にか一人で作れるようになっていた。また、私も、前回作ったものをもう一度作ってみると、前回よりも手早くできたりして、うれしくなる。そんなとき、継続して取り組むことの大切さを感じる。そんな機会を与えてくれる両親には本当に感謝している。

何気ない日常も、実はとても幸せなものなのだと思ふ。家族の存在の大きさを感じた。これからも、こんな家族団らんを大切にしていきたい。

## カメラマン・父

今治明徳中学校 二年 越智 あんじ おち あんじ

私の父はカメラマンだ。いつもは父のことをかっこいいなんて思わないが、カメラをかまえて写真を撮っているときは、かっこいいなと思う……かもしれない。

写真というのは、その時のその場面を切り取って形に残すものだと思ふ。写真を見返せば、このときはああだったなあ、なんて思い出すことができる。記憶を記録できるのだ。私は、父が大好きだ。父が撮った写真を見て、「おしゃれ！素敵！かわい！！ありがとうございます！」と言ってくれている声を聞くと、「どうだ！お父さんすごいだろ！」と、自分まで鼻が高くなってうれしいからだ。

私は父の撮る写真が大好きだ。個人的にナンバーワンだ。父はこれからもずっと私の自慢でナンバーワンの父だ。

## 本当のきずな

今治明徳中学校 三年 下久保 来美しもくほ くるみ

私は、何でも家族に話すようにしている。家族に話すと、気持ちが悪くなるから。私は、家族との会話を大切にしている。

私が、小学六年生の時、友人関係のことで、もめごとが起こった。その時は、家族に話せなかった。自分にも、負があると感じたから。話せないことで、不安がつり、それが、私を追いこんでいた。何もないのに、すぐ怒ったり、泣いたりしていた。そんな私に何かあったのではないかと、家族は、気づいてくれた。「学校で何かあったんだね、話してみて。」と言ってくれた。同じ気持ちになって、考えてくれた。学校の先生に相談して、すぐに解決してくれた。気がついてもらえなかったら、ずっと苦しいままだった。私は改めて、家族のありがたさを知った。

いつも当たり前のように接している家族。日常のありふれた会話から、人と人がつながり、強いきずとなる。そして、当たり前の幸せにたどりつくのである。

## ふじきつと家族

今治明徳中学校 三年 原 来由香はら まゆか

私は八人家族、父母と祖父母そして姉弟妹、三世代で暮らしている。令和のこの時代、核家族が当たり前の中では、大家族と言われる方だ。正直鬱陶しい。

ちょっととした悩みは、忽ち大問題の家族会議になつてしまふし、お祝い事は大々的に皆で御馳走にケーキ、いつの間にか大人達は祝杯を上げている。それが、私の普通なのである。

一人っ子の友人を見ていると、本当に羨ましく思う日常を、つい母につぶやいた時のこと。「今はそう感じて、大人になって離れた時、きつと違う感覚になる筈よ。特にお料理、美味しいって食べてくれる人がいるかどうかで、味がかわるのよ」

御馳走の時に一品、私の得意の料理の出汁巻卵を出す、家族は皆笑顔で食べてくれる。一回に八人分焼くから、上手にもなる訳だ。ふと私にとつてお料理が、考えていたよりも深い絆になつていことに、呆然とした。

## きもちをつたえるたんじょうびかい

乃万小学校 一年 みやたに いちか

ごがつのにちようびにいえてわたしとパパのたんじょうびかいをしたよ。おじいちゃんとおばあちゃんもしようたいしたよ。

ごはんはわたしがすきなからあげとグリルチキン。みんなであらべておいしかったよ。

プレゼントはにんぎょうとほんをもらったよ。おねえちゃんやいもうとといっしょにあそんでたのしかったよ。

わたしのかぞくはたんじょうびにみんなであらびをかきあって、きもちをつたえるよ。パパとママとおねえちゃんとおじいちゃんとおばあちゃんがかいてくれたよ。みんな「いつもにこにこえがおでうれしいよ。」とかいてくれていたので、これからもえがおでいたいとおもったよ。

ななさいのたんじょうびかいもおもいでにのこるいちにちになったよ。これからもかぞくのえがおのためにがみをかくよ。

## 大好きなひいおばあちゃん

乃万小学校 二年 いで ゆづき

みなさん、しつていますか。人がしぬというかなしみを、大好きだったひいおばあちゃんがなくなり、とつぜんだったので、わたしは、とてもかなしくなりました。

ひいおばあちゃんのいえをたずねると、いつもえがおでうれしそうに、

「ゆうちゃんがきてくれた。ひばちゃんうれしい。」と、口ぐせのように言ってくれました。さんそポンベをつけてくるしそんな時です。

ばあちゃんは、ぬいぐるみをけ糸であんでくれたり、ネットレスをビーズで作ってくれたり、こわれたらなおしてくれたら、お話を聞いてくれたりしました。お母さんから、ひいばあちゃんは自分がいなくなつても思い出してくれたらうれしいなと言いがら作っていたことを聞きました。これからも、ネットレスたちを大切にします。ありがと。

## みんなうれしい三姉妹

乃万小学校 三年 宮谷<sup>みやたに</sup> 葉月<sup>はつき</sup>

「はあちゃん、いっちゃんの家ぞくがふえるよ。」  
二年生の五月にお母さんからうれしいお知らせを聞いた。わたしは声に出してよろこんだ。

それから八か月たって一月二十三日の夜十時二十八分に元気な女の子が生まれた。お父さんと妹と家でわらってハイタッチをした。

はじめて会った時はビデオで見ていたよりも小さくてびっくりした。でもねている顔がかわいかった。だっこをしてみると思っていたよりもかるかった。妹を見るところれしそうでわたしもうれしくなった。六才の妹もお姉さんになってうれしそうだ。妹のたん生は家ぞくみんなにとってうれしいできごとだった。なかよしの三姉妹になりたいと思った。

そんな妹も生まれて六か月たった。よくわらうし、よく食べるし、よく遊ぶ。妹のおかげで家ぞくのえ顔がふえた。ありがとう。

## 四大家族

乃万小学校 六年 眞鍋<sup>まなべ</sup> 昊<sup>そら</sup>

妹が産まれてはや一年と五か月がたちました。ぼくの生活はかなり変わりました。ぼくが自分の部屋でのんびりしようとしても勝手に部屋に入ってきて、いろんな物をさわったりこわしたりして大変です。行きたい場所も制限されたりで、がまんする事も多いです。

でも、いやな事はばかりではありません。一人っ子だったぼくに妹ができたということはとても大きなプレゼントでした。家庭に笑顔が増えたり、食事の時の会話が増えたり、とりわけ両親の楽しそうな様子がぼくにとって一番うれしい事です。しかし、反対に子どものことでケンカもしたりしますが、すぐに何事もなかったようになるところは、ぼくと妹の大きな力だと思えます。

これからもずっとと四人で力を合わせて仲の良い回りに自まんできるような家族でありたいです。がんばります。

## 妹が生まれる時

乃万小学校 五年 池内<sup>いけうち</sup> 翔貴<sup>しょうき</sup>

ぼくは、三歳の妹がいる。生まれる時には大変だった。ぼくは一年生だった。お母さんが二月月入院することになってしまった。父、兄、弟、祖父母で協力する日々が始まった。学校のこと、ご飯、家事など、しないといけないことはたくさんだ。お父さんは、お風呂掃除や洗たくをしてくれた。祖父母が、料理を作ってくれたり、めんどうをみてくれた。お父さんが仕事で夜もない日があった。さみしい時やしんどい時に、祖父母がやさしく声をかけてくれた。ぼくはうれしかった。いつか、祖父母がしんどそうな時は、やさしく声をかけてあげたいと思った。お母さんはいろんなことをしていたことがわかった。妹は元気に生まれてきてくれた。みんな喜んで。大変だったけど協力して乗りこえられた。ぼくは少し成長できたと思う。これからも家族のためにお手伝いをすすんでやっていきたい。

## おじいちゃんはヒーロー

鴨部小学校 二年 長谷部<sup>はせべ</sup> 圭<sup>けい</sup>

ぼくには、百二才の不死身のひいばあちゃんから生まれた、七十二才のおじいちゃんがいます。ぼくにとっては大じなスーパーおじいちゃんです。

ぼくが自てん車にのれるようになったのは、おじいちゃんがまい日、いっしょにれんしゅうをしたくれたおかげです。りよう親がしごとでいそがしいので、いえることは何でもしてくれます。かぞくのごはんを作ってくれたり、お米やくだもの、やさいをかぞくのために作ってくれます。ぼくも妹も、おじいちゃんのはたけを見に行くのが大すきです。ぼくたちが見に行くと、おじいちゃんは、大へんよろこんでくれます。

さい近ぼくは、おじいちゃんのお手つだいをよくします。あせをかけた後で、おじいちゃんとおふろはさい高に気もちがいいです。ひいばあちゃんのように、おじいちゃんにも不死身でいてほしいと思えます。

## ぼくのお父さんは人気者

鴨部小学校 三年 越智 日向

「ひゅうくんのお父さん、おもしろいしやさしいよね。」と友だちに言われるのは、ぼくにとつてさ  
い高のほめ言葉だ。そう言われると、いつもうれし  
い気持ちになる。

ぼくの家でも「ちよつと手つだつて。」「ちよつと  
べん強教えて。」「ちよつといつしよにゲームして。」「  
と、お母さんやお姉ちゃんやぼくにいつもよび止め  
られるお父さん。」「ほんとにちよつと?。」と笑いま  
じりに答えるお父さんがうれしそうな顔をしている  
のをぼくは知っているよ。

ぼくはお父さんが大きすぎた。やさしいしおもしろ  
いお父さんはぼくのがれだ。もちろんおこられ  
ることもあるけれど、それできらいになつたりはし  
ない。わるい事はわるいとちゅういしてくれるところ  
も大きすぎたよ。ぼくもお父さんみたいな大人になれ  
るよう、お父さんのせなかを見て大きくなるからね。

## うちの母ちゃん

鴨部小学校 六年 石川 天都

ぼくの母ちゃんは、一日中大声を出している。ま  
ず朝は、早く起きて大声でみんなを起こす。目覚ま  
しでは、起きられなくても母ちゃんの一声でみんな  
そく起きる。学校に行くまでも大声で忘れ物はない  
か、歯みがきをしたか聞いてくる。登校寸前には、  
一列で行きよとか気を付けて行きよなどとずつと何  
か言っている。

家に帰ってからは、宿題終わった?お風呂入っ  
て!早くねなさい!とねる直前まで大声で何か言っ  
ている。今、思い出しながら書いているけどうつと  
うしくてたまらない。

母ちゃんは、家事して仕事行ってまた家事してぼ  
く達の事をやいやい言つてよくそんなに体力がある  
なと思う。でもそんなに言われているぼくにも原因  
があることはうすうす気付いている。だから本当は  
言われないうようにしないといけないけど、それもな  
かなかむずかしい。父さんがあきらめずに教えてく  
れているんだよと言っていた。母ちゃん有りがとう。

## いつまでもなかよく

波方小学校 四年 櫻井 恵中

わたしには五才の弟がいます。弟は、わたしのこ  
とが大きすぎです。いつもねる前に、わたしに「大き  
き、かわいいね。」と、うれしい言葉をたくさん言っ  
てくれます。だからわたしも、「カッコイイね、大  
すぎ。」とよろこぶ言葉を、弟にかけてあげていま  
す。わたしが他の子をほめたりすると、少しやきも  
ちをやいたりして、めんどろな場面もあります。弟  
はいつもわたしに、「遊ぼう、遊ぼう。」とさそつて  
来ます。わたしがしたい遊びもあるけれど、できる  
かぎり弟のしたいことを、ゆう先して聞いています。  
わたしが何か案を出して弟がそれにつてくれる  
と、うれしくなります。時にはぶつかりますが、す  
ぐになかなおります。これは、わたしの姉がわた  
しにしてくれていたことです。姉は中学生になり、  
あまり遊ぶことはなくなつたけど、わたしも遊べる  
時は弟とめいっばい遊んであげたいと思います。大  
きくなつても、いつまでもなかのよい兄弟でいた  
いと思います。

## 久しぶりのおばあちゃん

菊間小学校 五年 松田 瀬仁

ぼくのおばあちゃんは愛媛県のはしの方に住んで  
います。会うのに時間がかかったりコロナがあつた  
りして中々会えませんが、なのでおばあちゃんの顔や  
思い出はうつすらとしか覚えていませんでした。最  
近は電話で少し話したぐらいです。

そんなおばあちゃんが松山にひっこしてきたの  
で、夏休みに家族みんなで会いに行くことになりま  
した。大きくなつたぼくの顔を見てほしいと思いま  
した。

会う日、ぼくはドキドキしました。久しぶりだつ  
たのではずかしいもありました。おばあちゃんは  
こんな顔だったんだと思い、照れながら、ぼくも顔  
をしつかり見せました。おばあちゃんはとでもうれ  
しそうでした。ただ、やっぱりきんちようしてあま  
り話すことはできませんでした。

次は、すずしくなつた頃の秋に会おうねと約束し  
たので少しでも話をしたいです。おばあちゃんの元  
気な顔を見てよかったです。

## これぞわが家のルール

菊間小学校 六年 濱川はまかわ 羽琉うろ

私の家には、ルールというものがあります。それは、なにかあったら自分一人ではかかえこまずに絶対家族に相談することです。だから、なにかこまったことや、なにかいやなことがあったら家族みんなに話してそのことについて話し合い相談して解決をします。

私がとってもいやで悲しくて泣いてしまったときは、家族みんながさめてくれて、お母さんやおばあちゃんが私をギュッとだきしめてくれます。そして私は、おもうぞんぶん泣いてさげんでたくさん話していやな気持ちをふっとばします。そうすると、私の心のひっかかりは、すっと消え去ってしまいます。私はこのルールにとっても助けられています。このルールには家族だけでなくお友達との関わりでも生かせるルールだと私は思います。なにかにこまっているお友達を見かけたら、まずは話を聞いて寄りそい、解決の方法を考えたいです。そして、私と同じように友達の心のひっかかりもとれるといいなと思います。

## 私といとごをつなぐ人

亀岡小学校 六年 井手いで ゆい

おぼんにおばあちゃんの家に行きました。今年はひさしぶりにいところみんな集まるのでとても楽しみにしていました。

一日目は、おじいちゃんやいとこたちと神経すい弱をしました。いい勝負で負けるとくやしくて、何回もしました。そして、夜はみんなで花火をしました。とてもきれいでした。

二日目は、おばあちゃんがスイカを用意してくれたので、みんなでスイカ割りをしました。スイカはなかなか割れなかったので、二回目から目かくしを外してしました。すると、やっと割れてみんなそのスイカを食べました。とても楽しくて、ずっとこの時間が続いたらいいなと思いました。

みんな、おじいちゃんとおばあちゃんに会うために集まり、そこで私はいとこにも会うことができそうです。二人が私といとこ達をつなげてくれているのだと思います。おじいちゃんとおばあちゃんには、いつまでも元気でいてほしいです。また会いに行きたいです。

## わたしの大切なそんざい

鳥生小学校 四年 吉田よしだ 清玲すみれ

今年東京のおじいちゃんとおばあちゃんがわたしの家に遊びに来ました。う和島たい飯とたいのたきこみご飯をみんなで食べて、両方気に入ってくれてうれしかったです。道後温せんへ行き、駅前からくり時計も見ることができました。ぼつちゃん列車やかんらん車に乗ったり、松山城を見学しました。温せんでは、おばあちゃんの中を流すとすぐよくこんでくれたのでわたしもうれしくなりました。けれど、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、二人が東京へ帰る日がやって来ました。その日、わたしは学校へ行くので最後までお見送りができないのが残念でした。二人はわたしが見えなくなるまでずっと手をふってくださいました。わたしもずっと手をふり返しました。学校が終わって家に帰ると二人の笑顔が見れなくてとてもさびしくなっていました。おばあちゃんがおばあちゃんがいって、わたしはすごく幸せだなあと思っています。

## 家族の役わり

鳥生小学校 五年 松井まつい 杏珂きょうか

家族の役わりについて考えてみた。

お母さんは、いつも料理をしてくれるだけでなく一緒にいるだけで安心する。もしお母さんがいなくなると不安でたまらなくなると思う。私はお母さんの笑顔が大好きだ。

お父さんは、いつも仕事をがんばって、遊び相手にもなってくれるし、心強い。もしお父さんがいなくなると、なにかに挑戦する勇気が出ない。私には、お父さんの応援が必要だ。

お姉ちゃんは、話し相手になってくれたり、勉強や自分が知らないことを教えてくれる。もし、お姉ちゃんがいなくなると知らない事ばかりでさみしい時間がふえてしまう。

私は、みんなを笑わせる。でも、他のみんなは色々な役わりがあつて色々なことをがんばってくれているのに私だけ役わりが少ない。だからもっと家族のためにになりたい。

私も大好きな家族からたよりにされる人になりたい。

## おばあちゃん

国分小学校 二年 羽藤 はとう なな

おばあちゃんちは、わたしのいえからとても近いです。会いたくなったらすぐ会えます。また、おばあちゃんちはスズちゃんという女の子の犬をかわっています。いえにいくと、スズちゃんがげんかんでむかえてくれます。わたしは、だいすきな二人に会いに行くのをいつもたのしみしています。

この前は、おばあちゃんはいえで水あそびをしました。たのしそうにしているわたしを見て、にっこりしていました。そんなやさしいおばあちゃんのかおを見ることができてとてもうれしかったです。たのしいことを考えてくれたり、すきなところにつれて行ってくれたりするおばあちゃん。わたしは、もっともとおばあちゃんといっしょにいたいんです。おばあちゃん、いつまでも元気できてね。

## パパのきのこハン

清水小学校 一年 落合 おちあい 幸菜 ゆきな

わたしには、だいすきなたべものがあります。それは、パパがつくるきのこハンです。「きょうのきはんなにがいい?。」と、パパがいうとわたしはいつも「きのこ」はんがいい!。」

と、いいです。するとパパは、ゆうごはんにじゅんびしてくれます。

おこげがはいっていて、まいたけ、きのこ、しおこんぶ、しめじ、しいたけ、にんじんがはいっています。ごはんをついでくれるママに、「いっばいっいで。もっともっとな!!。」

と、わたしは、いいです。ちやいろいごはんにきのこのあじがしみて、すっごくおいしいです。ついっいおかわりもしてしまいます。おかわりをするパパのおかおがニッコリします。わたしもおもわずニッコリします。

かぞくみんながだいすきなパパのきのこはん。パパのえがおもみれる、きのこはん。また、あしたもつくってもらおうかな。

## 家族との思い出

清水小学校 四年 武田 たけだ 朔弥 さくや

ぼくの、家族との思い出は、石づち山に登ったことです。

目指すは、石づち山のとっぺんです。登る時に、鳥の鳴き声が聞こえてきたり、最近のできごとを話し合ったり、空気がおいしく気持ちよかったです。

登っていると、しんどくなりました。上に行くごとにきゆうしゃめんになり、おじいちゃんとおばあちゃんが生んどそうだったので、せなかを押しあげたりして登りました。

やっと石づち山のとっぺんにたどりつきました。石づち山のとっぺんからの景色はきれいで、つかれがふきとぶくらい最高でした。まずはおべんとうから食べました。とっぺんで食べるおべんとうは、とってもおいしかったです。お兄ちゃんとお話をしたり、景色をながめたりしました。

けわしい山道だったけど、家族みんなで話したり笑ったりして、登る石づち山は、とっても楽しかったです。また山に登りたいです。

## 大好きなおばあちゃん

波止浜小学校 四年 越智 おち 輝斗 らいと

ぼくには、二年半前になくなった大好きなおばあちゃんがいきました。おばあちゃんは、いつも元気で声も大きく明るい人でした。お姉ちゃんや、お兄ちゃんとケンカをすると、よくおばあちゃんにおこられていました。それでもぼくは、おばあちゃんが大好きだったので、ガンでおなかに水がたまってしまった。おばあちゃんとは、おばあちゃんと一緒に寝ていました。おばあちゃんの布団は安心できる場所でした。思い出とさみしくなると、おばあちゃんの温もりが恋しくなります。おばあちゃんがなくなった時は、家の中が一気に静かになりました。お母さんがすごくおちこんでいたけど、ぼく達子どもとお父さんとで、お母さんの側について少しずつ元気になつてもらいました。お母さんが「家族がおって良かった。」と涙をためて言いました。一人じゃたえきれない事も家族がいるとのりこえられる事がたくさんある事に気づかされました。

## ひろおばあちゃんへの思い

大西小学校 五年 小林 未来

私には、ひいおばあちゃんへの思い出があります。小さいころひいおばあちゃんの所へ行くと、必ず何かで遊んでくれていました。おはじきやビー玉、お手玉など色々なことをして遊んでくれました。ほかにもだっこなどをしてくれて、遊び以外も全力でやってくれました。

お手玉は、歌を歌いながらとっても上手にひろうしてくれたり、おはじきは、やさしくこうするんだよと一緒にやりながら教えてくれました。ひいおばあちゃんのおかげで一緒にいる時間が楽しくて、私にとつとてもうれしい時間だった事を覚えています。ひいおばあちゃんは、どんな遊びもとても上手に、分かりやすく教えてくれて、私も少しずつです。がうまくできるようになりました。

そんな、明るくてやさしいひいおばあちゃんは天国に行ってしまったけど、私の心の中ではかがやき続ける思い出です。

## 私のお父さん

大西小学校 六年 小林 楓歩

私の父は、教師です。私立の中学校の数学教師です。なので、家では勉強をたくさんやらされます。今は、小学六年生の私は、中学一年生の数学、国語、歴史、英語をしています。もちろん、私のためを思っで教材を持ってきてくれていたのですが、まだ小学生の私からすると、難しい問題はわかりません。私の将来の夢は、警察官なので、今のうちに、勉強はできた方がいいです。だから、私は勉強をがんばっています。そんな父も、休日は私達を色々な場所へ連れていってくれます。プールに連れていってくれたり、花火を見たり、父の学校の合唱部の大会や、テニス部、陸上部の大会も、何回も見に行きました。父は今バスケット部のこもんをしています。バスケット部の練習にも参加させてくれました。私が楽しんでいると、父は喜びます。父の喜んだ顔は、とてもすてきです。今まで行った所や、やさしい会話も、私の思い出です。これからも、父への思い出はたくさん作ってきたいと思います。

## お母さんの愛情

大西小学校 六年 加藤 朱莉

私のお母さんはおこるととてもこわいです。でも、それは私への愛情を持っておこってくれているのだと思います。お母さんの愛情について考えてみると、ふだんあまり考えてなかったけど、色々なことが思いあたりました。私のやっではいけないことや言っではいけないことを正そうとしてくれているのです。

他にお母さんの私への愛情について考えてみると、例えば家族のために一生けんめいがんばって働いてくれたり、毎日美味しいご飯を作ってくれたり、夏休みや冬休みの私のお弁当を毎日欠かさず作ってくれたり、習い事の送りむかえをしてくれたり、家事をがんばってくれたりなど、色々思いうかびました。

ふだんあまり考えたことはなかったけど、家族のために愛情を持って支えてくれているんだなと思いました。この作文を機会に、感謝の心を持ち、お手伝いなどをして、私からもお母さんに愛情を注ぎたいと思います。

## ひろおばあちゃんへの約束

桜井小学校 五年 井手 輝

ぼくは、すぐにゴロゴロしてしまう。宿題もすぐにいやになってしまう。だから、いつもおこられる。お母さんが「しんぼうのできない子だね。」と言った。「しんぼう?」

ぼくは、ひいじいちゃんの言葉を思い出した。ひいじいちゃん、ぼくに「ひかる、しんぼうでできる人になれよ。」と言った。それが、ひいじいちゃん最後の言葉だった。ぼくは、その時四才で、小さかったから「しんぼう」の意味がわからなかった。だから、お母さんに聞いてみた。「しんぼう」とは、「がまんして、いっしょうけんめいやりなさい。」と言う意味だそう。たしかにぼくは、がまんできないことばかりだ。ひいじいちゃんは、いつだって、だまっでがんばる人だったとお母さんが教えてくれた。「しんぼうでできる人になれよ。」

この言葉は、ひいじいちゃんと、ぼくだけの男の約束だ。いやだなと思うときは、この言葉と、ひいじいちゃんのことを思い出して、がんばろうと思う。



## ぼくのじいちゃん

桜井小学校 六年 石川 弦いしかわ げん

じいちゃんは、畑で野菜作りなどをしている。とれたての野菜をいつも家に届けてくれる。その野菜は、無農薬でスーパーのよりとても、水々しくておいしい。

ぼくもじいちゃんの野菜作りの手伝いに行くことがある。例えば、ジャガイモの植え付けやトウモロコシ、大根、枝豆のしゅうかくなどに行く。

ある日、とつ然、じいちゃんが、病気になった。畑の世話を、お父さんと、ぼくがすることになった。雑草が生えてくるので、草刈りをしたり、野菜が、かれないように、水やりをしたりした。そんな日が続くと、じいちゃんは、こんなにがんばって作ってくれてたんだなとしみじみ感じた。

じいちゃんが、退院した。無理させないように、ぼくがもつと手伝って、じいちゃんの喜ぶ顔が見たいと思う。

## いっしょめりがうい

桜井小学校 六年 眞辺 理香まなべ りい

ぼくは、嫌なことや辛いことがあると、それを誰にも言わずに心のためにためておきます。お母さんは、そのぼくの心に気付いて話を聞いてくれます。話を聞いてもらうと気持ちが悪くなりません。

ぼくは、サッカーを習っています。練習の送迎、試合の荷物当番、飲み物など、朝早くから起きて準備してくれます。お父さんも、休みの日なのに、試合の時は必ず来てくれて、一緒にボールを蹴ってくれたり、アドバイスをしてくれたりします。いつも準備や応援をしてくれるお父さん、お母さんに「いつもありがとう」と思っています。試合では、勝った時は一緒に喜んでくれ、負けてくやしい時は、「次はがんばろう」と前向きになれる言葉をかけてくれます。

ぼくは、お父さん、お母さんに話を聞いてもらったり、助けてもらって、本当に感謝しています。いつもありがとう。

## 私の大切な家族

朝倉小学校 五年 脇村 あおいわきむら

私の祖父母は、長崎県五島市の小さな島に住んでいます。愛媛県今治市から約六〇〇kmあり、自動車と船に乗って約十四時間かかります。

台風がくることが多い島です。この前の台風六号も通過しました。台風情報を見るたびに、

「おばあちゃんの家大丈夫かな。被害受けてないかな。」

と、家族で話しながらSNSで連絡を取り合っています。

「大丈夫よ。愛媛県も気をつけてね。」

と、連絡がくると安心します。自分の住んでいる地域の方が大変なのに、私たちのことを気にかけてくれて心配してくれるのはすごくうれしいです。

この三年間は、コロナ禍で帰省することができません。次、帰省したらたくさんお話をしたいです。元気で長生きしてください。

## みんなでしあわせ

近見小学校 二年 木村 倅花きむら けいか

わたしは五人かぞく。

春から大学に行ったお兄ちゃん。

今は四人でごはん。四人でお出かけ。四人で話してたのしい。たのしいけど、何か足りないよ。さみしいな。

わたしが「どうして？」と聞いたら、「どうしてだと思おう？」といつも一しよに考えてくれたお兄ちゃん。お兄ちゃんと答えをさがしていくのがすきだった。お兄ちゃんにかた車してもらおうと、高くて空が近くなつて、気もちがよかつた。

お兄ちゃんのへやに入ると、「どうした？」の聲が今も聞こえてくるみたい。

お兄ちゃんに会える日。わたしの心にパツとえがおの花がさく。ジツとしていられなくなつて、今にもはしり出したい気もちになるよ。一しよに行きたいところがあるよ。聞いてほしいことがある。「わたし、しんちよのびたでしょ？」やつぱり五人がいいね。あん心する。ずっと大すぎ。お兄ちゃん。

## 弟が生まれた

近見小学校 二年 中野 なかの 綸 いと

今年の二月に、わたしに弟が生まれました。弟が生まれる前の日から、お母さんは入いんしました。わたしは、一日中ドキドキしていました。つぎの日の朝に弟が生まれました。

かぞくみんな、ずっと弟に元気に生まれてきてほしいと思っていました。はじめて弟をだっこした時、小さくてかわいくて、大切にしたいなと思いました。みんなもやさしいかおをして、だっこしていいました。弟のまわりには、やさしい空気をかんに感じてかぞくの気もちが一つになっていような気がしました。その時に、かぞくのきずなをかんにじて、やさしくあたたかい気もちになりました。赤ちゃんは、小さいのにきずなをつよめる大きな力をもっていると思いました。

これからせいちようして大へんになると思いますが、せいちようを近くで見るのもたのしみです。いっぱいあそんであげたいです。

## 男のやくそく

近見小学校 三年 大野 おおの 颯晴 はやせ

ぼくは、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、ぼく、妹の五人家ぞくです。お父さんが、はじめて出ちように行くことになった時にお父さんとかわした男のやくそくがあります。

「お父さんが出ちように行つてる間、男ははやせ一人になるから、はやせがお母さんとお姉ちゃんとみやちゃんを守つてあげてね。たのんだよ。」

とお父さんに言われました。そしてゆびきりげんまんとお父さんを守りました。ぼくは、なき虫でこわがりなのでみんなを守るかふあんでした。お父さんがいない間、ぼくはたくさんお母さんのお手つたいをしたりお姉ちゃんや妹とけんかをしたくないようにしました。なくのもがまんしました。お父さんが、出ちようから帰つてきてたくさんほめてくれました。

「みんなを守つてくれてありがとう。」

と言つてくれて安心しました。お父さんと二人だけでかわしたやくそくは、ぼくを強くしてくれました。

## ぼくのお兄ちゃん

近見小学校 三年 榎矢 えのや 聖透 せいと

ぼくは四人兄弟の四男です。一番上のお兄ちゃんはおくより九つ上の高校三年生です。お兄ちゃんはおくより上ぶで、全国大会にも出るくらいとても走るのが速くて、あこがれのそんざいです。しんけんに練習をするすがたを見ると、かっこいいなあと思います。一位でもらった金メダルはキラキラしています。ぼくはそんなお兄ちゃんをいつもだれよりもおうえんしています。春になると、お兄ちゃんは大学のために遠くに行つてしまいます。はなればなれになると思うと、今からとてもさみしいです。でも、遠くてもぼくはお兄ちゃんが一番のおうえんだんです。

ぼくとお兄ちゃんの名前には同じ漢字がつかわれています。お父さんとお母さんが「兄弟がいつまでもつながっていられますように」と同じ漢字をつけてくれました。はなれていても、心はいつもつながっています。大きなお兄ちゃんをずっとずっとおうえんしていきます。

## 仲よしの家族

近見小学校 六年 壺内 つぼうち 咲奈 さな

私は、家族に「十年後の私へ」と言う手紙をもらっていました。その手紙は、缶の中にたいせつに保管されていました。缶を開けるとたくさんのお手紙がはいつていました。お母さん、お父さん、祖父母、ひ祖母などからの手紙がはいつていました。私はこのとき「こんなに手紙をもらって幸せだな」と思いました。手紙は、私の一才のたんじよう日の前日に書いたものでした。手紙には、おたんじよう日おめでとうと最初に書いていました。ほかに、私はどうなつてるかなとか今の私のことを書いてました。そして、最後には「笑顔いっぱい家族でいようね」と仲のよい家族でいようね」と書いていました。そして今、仲のよい家族になれています。いっぱいおでかけしていっぱい遊んでいます。かんかもするけどすぐ仲なおります。私は、家族がいて幸せです。家族みんな思っていると思います。これからも、笑顔いっぱい仲よしの家族でいられますように。

## 祖父とのテレビ電話

立花中学校 一年 寺嶋 てらしま 有 ゆう

私は毎日祖父とテレビ電話をしています。祖父は毎回同じようなことしか聞いてこないし、もう何回も話したよってことを初めてみたいに聞いてくるから、みんなめんどくさがって電話に出ないけど私はそれでも電話をしています。その理由は私の祖父は一人暮らしで、本人は寂しくないと言うけど私だったら誰かに話を聞いてもらいたいし、顔を見て電話するのが祖父の楽しみなんだと思うからです。

私のもう一人の祖父は数年前に亡くなってしまいました。私はまだ小さかったので、死んでしまう何が起こってどんな感情になるかなど、いまいち分かかっていませんでした。ですが、私も中学生となり沢山の感情を知ったし、「死」とはどういうものかも理解して、だからこそ祖父との時間を大切にしたいと思います。

私は祖父のことが大好きです。すごくすごく大好きです。なので私はこれからも祖父と沢山電話をして沢山話したいです。

## 守ってくれた命

立花中学校 二年 野田 のだ 怜那 れいな

半年ほど前、私の曾祖父がなくなりました。九十七才だった。曾祖父は戦争も経験していて、国のために戦っていたそう。葬式が終わり少し落ち着いた数日後、祖母がずっと悩んでいたせきの原因を調べるために病院に行った。曾祖父の介護が忙しく、三年ほど行けていなかったのだ。私は祖母のせきの原因は軽いものだと思っていた。しかし、担当医の診断は予想すらできないものだった。「脈拍数がとても少ないです。あと一週間遅れていたら命を落としていたかもしれません。」私はその言葉を聞いた瞬間、涙がでてきた。祖母がいけない生活なんて考えられないくらい私は、祖母のことが大好きだからだ。もし、曾祖父がああタイムングでこの世を去っていなかったら祖母の方がはやくいなくなっていたかもしれない。今、祖母はペースメーカーを入れて元気に過ごしている。曾祖父は祖母のことを守ってくれたんだ。これからは曾祖父の守ってくれた命を私が守れるようになりたい。

## 僕と祖父と野球

立花中学校 三年 田頭 たがしら 颯真 そうま

「颯真ナイスボール」、小学生のときからよくキャッチボールをしてくれていた祖父は去年天国へ旅立った。いつも僕を応援してくれていた。野球の試合を見に来てくれることが多くて、ヒットなどを打ったら喜んでくれた。

祖父に僕はホームランの動画を見せた。「ナイスバッティングやー!」その一言を僕はずっと覚えている。もつと祖父にいいところを見せたかった。祖父は僕が高校野球で甲子園に出場することをとても楽しみにしていた。なので、僕は自分のためと祖父のために高校野球で全力をつくし、甲子園へいくと強く心に誓いました。

今日、僕は祖父の墓参りに行った。気持ちをこめていいねいに磨いた。母が、「ありがとう。じいちゃん喜んでるよ。」と言ってくれた。きつと天国で祖父は見守ってくれていると思う。バッターボックスに立つと祖父がスタンドから応援してくれている気がする。僕は頑張るからずっと見守っててね。じいちゃん。

## 母との時間

大西中学校 二年 竹内 たけうち 加奈子 かなこ

小学校高学年の時、母の仕事が忙しくなったことがありました。それまでは、朝食、夕食も一緒に過ごしていました。ですが、それからは朝は仕事の支度でバタバタし、夕方は、遅ければ七時半頃に帰ってくるので、夕食も別々に食べるようになりました。他人から見ると、大したことないのかもしれない。しかし、母子家庭で兄弟もいない私は、帰ってきてからの時間がたいくつで、寂しくてたまりませんでした。「ただいま」が玄関で虚しく響く度に、心細くなりました。

私は、やっと気が付きました。何気ない、家族と過ごす時間がかけがえのないものだったことに。母と食事する時の会話、母が「おかえり」といってくれる毎日が、恋しくなりました。

今では母は転職し、私が帰るとご飯の支度をしてくれています。この、何気ない大切な日常を噛みしめて日々を過ごしていきたい。心からそう思います。

## 募集要項

応募資格 ▶ 今治市の小中学生、1校3～10点

募集要領 ▶ 「家族のきずな」に関する内容のもの  
(例) 家族の思い出、おじいちゃん・おばあちゃんの思い出、家族のありがたさ、家族の愛を感じたとき、忘れない家族の一言など、家族のきずなの大切さを感じたことなど……。 (字数) 400字以内

応募期間 ▶ 令和5年8月1日(火)～9月5日(火)

賞 ▶ ①特別賞 5点 賞状と副賞  
②優秀賞 応募総数の10%  
優良賞 応募総数の20%

発表・表彰 ▶ ①令和5年11月8日(水)  
18:30より特別賞5点の発表と表彰式。  
②優秀賞・優良賞は学校を通じて伝達。

その他 ▶ ①応募作品は未発表で日本語のものに限ります。  
②特別賞・入賞作品に関する著作権は主催者に帰属します。  
③特別賞・入賞の作品は主催者発行の「エッセイ集」にて紹介します。  
④作品のプライバシー、個人情報に関して主催者は一切責任を負いません。  
⑤公益財団法人モラロジー道德教育財団「心をつなぐエッセイ募集事業」に基づき実施するものです。